



テムズのほとりで満喫!

●征くシリーズ●取材・執筆・写真/秋穂ホートン・本誌編集部

ヘンリー・ロイヤル・レガッタを征く



夏の太陽の光に煌くテムズ河の水面を2艘のボートがゴールを目指して疾走する。河岸には多くの着飾った人々が集い、思い思いにレースを観戦。熱い声援を送る人もいれば、シャンパングラス片手に談笑に忙しく、レースどころではない人々もいる。水上のストイックな戦いと岸辺の華やかな雰囲気鮮やかなコントラストを織りなすのもヘンリー・ロイヤル・レガッタ（以下、ヘンリー・レガッタ）の魅力だろう。ロンドンから西へ55キロ離れたテムズ河上流を会場に行われる、ヘンリー・レガッタ。ヨーロッパ最古のボート・レースであると同時にイングランド初夏の風物詩であるこのボート競技大会について今号ではお届けすることにしたい。

上流階級のスポーツとして発展

戦争などの有事の際、あるいは日常生活で海上の移動手段として古代から活用されてきたボート。紀元前15世紀のエジプト王アメンホテプ2世も優秀なボートの漕ぎ手として当時の歴史書に刻まれるなど、ボート競技の歴史は非常に古い。

英国では18世紀末にかけて、イートン校やウエストミンスター校といった上流階級の子弟が通うパブリックスクール、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学など名門大学でボート部が次々と創設され、アマチュアスポーツ競技としてボート競技が盛んになったという。ヘンリーの町の経済的發展と中上流階級を中心としたアマチュアボート競技の盛り上がり軌を一にしたことからヘンリー・レガッタが誕生したといえるだろう。

ヘンリー・レガッタの起源は1839年にさかのぼり、第一次第二次世界大戦期間を除いて今日に至るまで毎年行われてきた。

レースの舞台となるヘンリー・オン・テムズはオックスフォードシャー、バークシャー、バッキンガムシャーの3つの県境に位置する町で、1179年にヘンリー2世の直轄領として歴史に登場する。黒死病が蔓延した中世には人口の60%が亡くなったといわれているが、17、18世紀にはガラス細工やモルトの生産で町は大いに発展。テムズ河畔で交通の要衝地でもあったため、農産物や工業製品の交易およびロンドンへの物資輸送で繁栄した。

ヘンリー・レガッタ開始に先立つ10年前の1829年、オックスフォード大学対ケンブリッジ大学のレガッタ競技が史上初めて行われたのがこのヘンリー・オン・テムズ



今日では、ウィンブルドン選手権（テニス）、ロイヤル・アスコット（競馬）、全英オープン（ゴルフ）と並び、英国の夏を彩る、社交界およびスポーツ界最大のイベントと見なされている。本特集では、ヘンリー・レガッタの見どころをいくつか紹介したい。

だった。町はレース観戦とお祭り騒ぎを自当に訪れた人で大いに賑わった。しかし、当時のボートは現在のものに比べると重さも幅もあり、運搬は重労働。より遠方にあるケンブリッジ大学が「不公平」だと異議を唱えたことから、レース会場は翌年以降、両大学にとって等距離に近いロンドンに移されてしまう。

1829年のレガッタがもたらした経済効果を再びと、切望する地元の人々がヘンリーでついに復活。その当時の大会はヘンリー・オン・テムズの市長が主催するイベントとして発足した。他の催しものと並行して楽しむいわば町内行事の一つだったという。

しかし、いつしかレースそのものが主役となり、アマチュア選手が真剣勝負をかけて挑む世界的な大会へと変貌を遂げる。当初は午後の1日だけしか行われなかったレースが、40年からは2日間の大会に拡張。1986年からは5日間に及ぶ大会へとその規模を拡大させている。数多くのエントリーがあるため、28年以降は本大会へ出場するための予選が大会の前週に行われるようになった。

一方、1851年にはヴィクトリア女王の夫、アルバート公が大会のパトロンとなる。同公の死後も、王室メンバーがパトロンを務めることが伝統となったことからヘンリー・レガッタには「ロイヤル」の名が冠される。王室の主要メンバーが大会に臨席することもあり、近年では2010年にアン女王が出席している。

レガッタに出かける前に 知っておきたい基礎知識

どんなイベント?

どんな賞を争う?

5日間で合計200レースが行われ、20の賞が種目、男女、レベル別に用意されている。

2016年のスケジュールは?

期日: 6月29日(水) ~ 7月3日(日)

※木・金・土では午後4時20分~5時30分までは途中休憩でレースは行われず。

6月29日(水) 9:00am ~ 最終レースは7:20pm
計88レース(予選)

30日(木) 9:00am ~ 最終レースは7:25pm
計80レース(予選)

7月1日(金) 8:30am ~ 最終レースは7:20pm
計67の準決勝レース

2日(土) 10:00am ~ 最終レースは7:25pm
計44の準決勝レース

3日(日) 11:00am ~ 最終レースは4:00pm
計20決勝レース、
午後4時30分から表彰式

ポイント!

レース数が多く、比較的観戦客も少ない水曜日と木曜日が狙い目。また最終日の日曜日は、決勝だけが行われるためレース数は少ないものの表彰式があり(スポーツ界の著名人がプレゼンターを務めることも多い)、さらに華やかな雰囲気。

コックス(cox)の役割

ボートに乗っていないながらオール(oar、英語では「オーア」と聞こえる)を漕いでいないあの人は誰? と不思議に思うかもしれないのがコックス(舵手)。一見、クルーに大声でハッパをかけているぐらいにしか見えないが、実は高度な技術と冷静な判断力が求められ、クルーの信頼を背負うのが舵手のポジションである。オーケストラの指揮者に喩えて「船上の指揮者」とも呼ばれる。エイトでは艇の左右にそれぞれ4人ずつのクルーが座り、オールを漕ぐ。そのためにまっすぐに進んでいるかのように見えるが実は微妙に蛇行して進んでおり、この舵取り(rudder work)を行うのがコックスの重要な役割。コックス席には舵を取るための器具が備え付けられている。蛇行は大きなタイムロスをもたらすため、できるだけ蛇行しないようにするのがコックスの腕の見せ所。クルーの漕ぎによる艇の動きを感じ、風や波のコンディションを読み針路を予測、ラダーを扱う指の繊細な感覚を鍛えることが求められる。また、クルーへの的確な声かけもコックスの仕事だ。

ボート競技の種類は?

スweep種目 sweep... 1人が1本のオールで漕ぐ。

ボートの漕ぎ手の人数により、エイト(8人)、フォア(4人)、ペア(2人)に分かれる。

※「+」は「cox(コックス=舵手)」付種目、「-」は舵手なし種目。

2- Coxless Pair (舵手なしペア)

2+ Coxed Pair (舵手付ペア)

4- Coxless Four (舵手なしフォア)

4+ Coxed Four (舵手付フォア)

8+ Coxed Eight (舵手付エイト※エイトには必ずコックスが同乗)

スカル種目 sculling... sweep種目のオールよりも小さいオール2本を1人の漕ぎ手が両手で握り漕ぐ。

※「x」はスカル種目を指す。

1x Single Scull (シングルスカル)

2x Double Scull (ダブルスカル)

4x- Coxless Quadruple Scull (Coxless Quad)
(舵手なしクオドルプル)

4x+ Coxed Quadruple Scull (Coxed Quad)
(舵手付クオドルプル)



レース当日、テントの中で作戦会議に臨む選手たち。普段のトレーニングの成果を出し切ることができるか一約7分のレースでは集中力の持続が全員に求められる。

レースコースの長さ、形式は?

距離... 全長1マイル550ヤード(2,112メートル)

形式... バッキンガムシャー側とパークシャー側の2つのレーンに分かれ、1対1で争う2艇対抗レース。

ポイント!

通常のボート競技の距離は2,000メートル。エイト艇は時速20キロ以上の速さで進み、レースの平均時間は7分程度。ボートの長さもエイト艇の場合、全長約17メートル、重さも100キロあり、迫力十分だ。

エイトを構成する9人...
し烈なポジション争い!

←進行方向 バウ bow 2番 3~6番(ミドルフォア middle four) 7番 ストローク stroke コックス cox

バウ、2番の選手は揺れの影響を比較的受けやすい。漕ぎにくいいため、技術力が要される。

3番~6番はミドルフォアと呼ばれ、艇のエンジンの役割を果たすため体力のある人が担当。

7番は整調のリズムを後ろの選手に伝える役割を担う。

別名「整調」とも呼ばれるストロークはリズムを決めるポジションにある。コックスの指示(1分間に何回漕ぐか、漕ぐ速さなど)に対応する役割を担い、安定力が求められる。

ポイント!

レガッタの華となっているのが、1839年以来続く、男子エイトのグランド・チャレンジ・カップだ。世界中の名門ボートクラブのチームが参加し、過去には米国、ドイツ、カナダ、オーストラリアなど様々な国のチームが優勝している。大会期間中、立派な銀製のトロフィーはプライズ・テント(Prize Tent)に飾られている。

また、ヘンリー・レガッタが学生の競技としてスタートし、名門パブリックスクールとも深い関わりをもつという歴史を考えると、男子ジュニア部門のプリンス・エリザベス・チャレンジ・カップも要注目。高校野球の甲子園球児のような感覚で応援したくなる。将来の有望選手を見つけることができるかもしれないレースだ。

男子オープン(最上級レベル)

- Grand Challenge Cup (8+)
- Steward's Challenge Cup (4-)
- Queen Mother Challenge Cup (4x)
- Silver Goblets & Nickalls' Challenge Cup (2-)
- Double Sculls Challenge Cup (2x)
- Diamond Challenge Sculls (1x)

女子オープン(最上級レベル)

- Remenham Challenge Cup (8+)
- Princess Grace Challenge Cup (4x)
- Princess Royal Challenge Cup (1x)

中級

- Ladies' Challenge Plate (8+)
- Visitors' Challenge Cup (4-)
- Prince of Wales Challenge Cup (4x)

男子クラブ

- Thames Challenge Cup (8+)
- Wyfold Challenge Cup (4-)
- Britannia Challenge Cup (4+)

男子学生

- Temple Challenge Cup (8+)
- Prince Albert Challenge Cup (4+)

男子ジュニア(19歳以下)

- Princess Elizabeth Challenge Cup (8+)
- Fawley Challenge Cup (4x)

女子ジュニア(19歳以下)

- Diamond Jubilee Challenge Cup (4x)



クラブ(学校)ごとにユニフォーム、オールの色が決まっているので、応援時に見分けやすい。

エリア別！ ヘンリー・レガッタ観戦法

どうやって楽しむ？



ワーズ・エンクロージャーを往復してくれるのでフィニッシュ地点での観戦も可能。島と河岸から、両方レースを楽しむことがメリット。デメリットは企業関係者しか利用できないこと。

4 ピクニック・エリア The Picnic Area



最もカジュアルかつリラックスした雰囲気のでレース観戦できるエリア。スタート地点から1マイルほどの距離の河岸（パークチャー側）は無料で一般に開放されている。ドレスコードも当然なし。中には水着姿で観戦する人も見られる。敷物や椅子を持参し、近所のスーパーで買った食料や飲み物を広げて夏の1日を楽しむ人であふれているエリアでもある。屋台村もあるので、安くて美味しいストリートフードが食べられるのもこのエリアのメリット。デメリットは、場所取りは早い者勝ちであること、雨が降った際には屋根がないということが挙げられる。

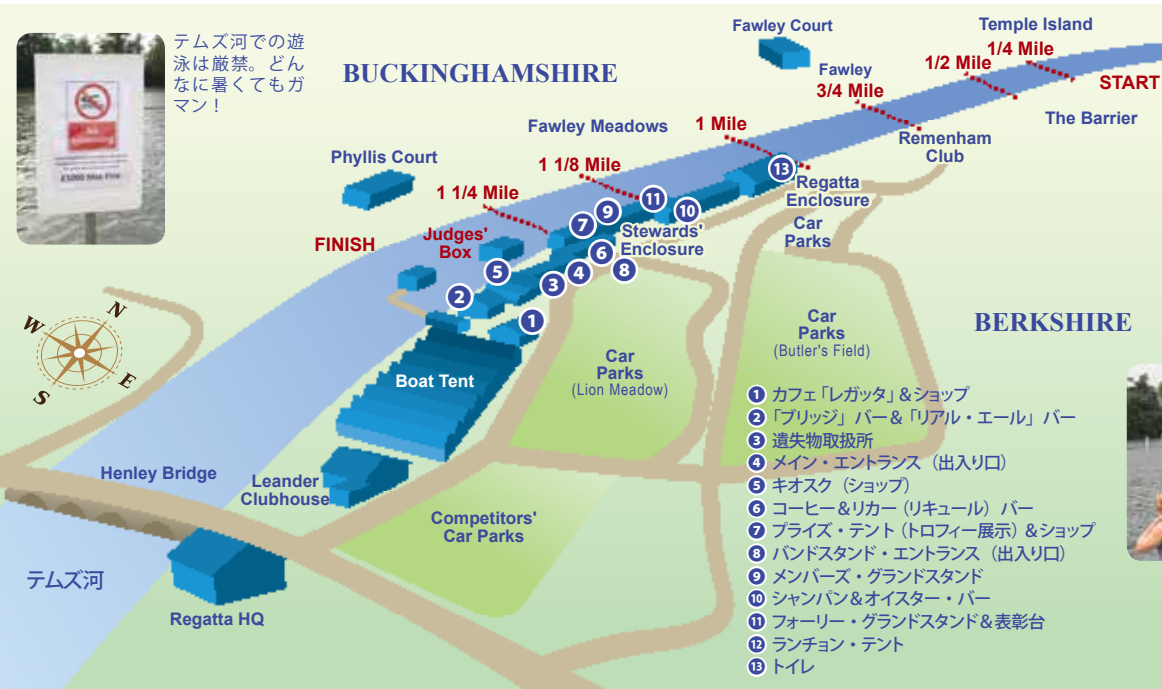
ピクニック必勝法

快適なピクニック&レース観戦を楽しむために、ラグ（敷物）は必須。ラグで場所取りをする人も多い。さらに折り畳み用のピクニックチェアや日差しをよけるためのパラソルがあると便利。直射日光が照りつける場所でもあるので日焼け止めは忘れずに準備していきたい。ヘンリーの町中にあるスーパーとしてはウェイトローズ（33 Bell Street, Henley-on-Thames RG9 2BA）が便利。手作りサンドイッチやパンを売るお店もあるので利用するとよいかも。河に足をを入れて沐浴を楽しむこともできるのでタオルを持参するのもお薦め（あまりの暑さのため、足をテムズ河の水で冷やす人も昨年は続出!）。



暑い日は日陰でピクニック!

男性陣の粋な装いを眺めるのがとにかく楽しい。派手なプレザーは自分が所属している/いたボートクラブの上着やキャップであることも。シングルタイプのプレザー（正確にはプレイザー）の語源は1829年に行われた大学対抗レースで、ケンブリッジ大学の学生が所属するカレッジのカラーである、燃えるような（blazer）真紅のジャケットをユニフォームにしたことに由来するという。女性よりも男性のファッションに、より注目が集まる唯一の機会がこのヘンリー・レガッタといつて良さそうだ。



- 1 カフェ「レガッタ」& ショップ
- 2 「ブリッジ」バー & 「リアル・エール」バー
- 3 遺失物取扱所
- 4 メイン・エントランス（出入り口）
- 5 キオスク（ショップ）
- 6 コーヒー&リカー（リキュール）バー
- 7 プライズ・テント（トロフィー展示）& ショップ
- 8 バンドスタンド・エントランス（出入り口）
- 9 メンバース・グランドスタンド
- 10 シャンパン&オイスター・バー
- 11 フォーリー・グランドスタンド&表彰台
- 12 ランチョン・テント
- 13 トイレ

広い会場の敷地は、次のとおり、大きく4つのエリアに区切られている。各エリアごとにプラス点、マイナス点があるので、観戦場所は予算や好みをふまえて選ぶといいだろう。

1 スチュワーズ・エンクロージャー The Stewards' Enclosure

◆フィニッシュライン近くにある、最もハイソなエリア。ヘンリー・ロイヤル・レガッタのメンバー及びそのゲスト（子供は10歳以上のみOK）だけが入れるエリア。多くの一般来場者にとって、チケット（バッジ）の入手は「コネ」に頼るしかないのが実情。ちなみに、メンバーの数は現時点で6,500。申請時に既存メンバー2人の推薦が必要で、ウェイティング・リストに名を連ねるのは1,000人にのぼり、約10年待ち!

◆ドレスコードも厳しく、男性はジャケットにネクタイ、女性はズボンやミニスカートは否法度で膝下ラインのスカートの着用が義務付けられている。入口でスカート丈が規定より短いために入場拒否された人を筆者も目撃。とはいえ、長いスカートさえあれば靴やトップスは自由なので、雨の日には長靴にレインコートで観戦というもあり、だそう。

◆カメラやスマホでの撮影はOKだが携帯電話の使用は固く禁じられている。



チケットの代わりとなるバッジ。エンクロージャー内に入る際には厳しくチェックされる。

2 レガッタ・エンクロージャー The Regatta Enclosure

◆スチュワーズ・エンクロージャーに隣接する、一般発売されるチケットの購入により入場が可能なエリア。曜日によってチケットの価格も異なる（大人1名£22〜、14歳以下は無料）。厳しいドレスコードはないが、多くの人がジャケットを着用し、それなりにお洒落をしているので最低でもスマートカジュアルは心がけたい。

◆スチュワーズ・エンクロージャー同様、飲食物の持ち込みは禁止されている。またエリア内では常にチケットでもあるバッジを身につけていなければいけない。メリットは一般人でも入れ、パーティーのような雰囲気を楽しめること。熱心なレガッタ・ファン、サポーターが多いのもこのエリアの特徴。デメリットは、人気の曜日はチケットが早々に完売してしまうこと。なお、最終日に行われる表彰式は、レガッタ・エンクロージャーの人もスチュワード・エンクロージャーにて見学可能。

3 ホスピタリティ・エリア The Hospitality Area

◆接待を主な目的として企業が利用できるエリア。スタート地点近くにあるテンプル島とフォーリー・メドウと呼ばれるコース中間地点の河岸エリア（バックinghamチャー側）を、テントやテーブル単位で企業・団体が貸切利用し、昼食や飲み物を提供しつつ大切な顧客の接遇にそしむ。チャーター・ボートが島とスチュ

オフィシャル・プログラムの見方

Princess Elizabeth Challenge Cup 賞名

No. 2 (Bucks) / No. 1 (Berks)
レーンナンバー
(バックinghamチャー側・パークチャー側)

Cox コックス

Bow パウ（艇首に座るポジション）

2~7
シート番号（各選手の座るポジション）

Average Weight チームの平均体重

Barrier / Fawley 途中通過地点のタイム

Race No. 13 PRINCESS ELIZABETH CHALLENGE CUP				10.10			
No. 2, Bucks				George Watson's College (134)			
Row	st lb		st lb	Row	st lb		st lb
1	11 5	5	13 0	1	11 9	6	11 5
2	12 11	6	11 5	2	13 9	6	12 2
3	11 7	7	11 12	3	13 12	7	15 4
4	11 13	8	11 9	4	13 8	8	12 3
Cox R. C. Moore 8 2				Cox S. M. Gearing 8 1			
Average Weight: 11 13				Average Weight: 13 4			
Colour: White				Colours: Red and White			
Times: Barrier				Times: Fawley			
Winner				Distance			

10.10 レース開始時刻

George Watson's College (134)
チーム名（ボート番号）

st lb
各選手の体重
ストーンとポンドで表示
1 st=14 lb (約6.35kg)

Colour
ユニフォームシャツの色

Str
ストローク（艇尾に座るポジション）

Distance 艇差



日替わりで発行される「オフィシャル・プログラム」。ショップなどで購入できる（昨年は3ポンド）。レース観戦もこれがあれば、がぜん面白さアップ!

ポイント!

チームの「平均体重」

なぜ選手の体重とチームの平均体重がプログラムに記されているのだろうと思うかもしれない。ボート競技の場合、体重が重い方がオールに伝わる力が大きくなるため有利とされる。すなわち平均体重の重い方が、競技には有利なチームとみなされる。

ヘンリー・オン・テムズ 街歩きガイド

テムズ河のほとりにある小さな田舎町ヘンリー・オン・テムズ（以下ヘンリー）はヘンリー・レガッタ観戦以外にも魅力がたっぷり。歴史情緒あふれる街並みと緑豊かな河沿いのウォーキングをあわせて訪れる計画を立ててはいかが？

①レッドライオン・ホテル

Red Lion Hotel

●ヘンリーのランドマークとなるのがテムズ河に架かるヘンリー・ブリッジ。この橋のたもとという等地に位置するのが町で最も古く由緒あるホテル、レッドライオン・ホテルだ。旅宿として、その歴史は17世紀にさかのぼり、清教徒革命で処刑されたチャールズ1世やその宿敵オリバー・クロムウェルなど、多くの王侯貴族が滞在したという。皇太子時代は浪費家で知られた

ジョージ4世が、ここでラムチョップ14本を平らげたという逸話も残っている。

●落ち着いたホテルの雰囲気は伝統と格式を感じる一方、家庭的なぬくもりがある。アフタヌーン・ティーも人気。建物の裏庭には17世紀当時の建物もそのままの姿をとどめ、現在はスパ施設として利用されている。

住所：4 Hart Street, RG9 2AR

Tel: 01491 572 161

www.redlionhenley.co.uk

②ジ・エンジェル・オン・ザ・ブリッジ

The Angel on the Bridge

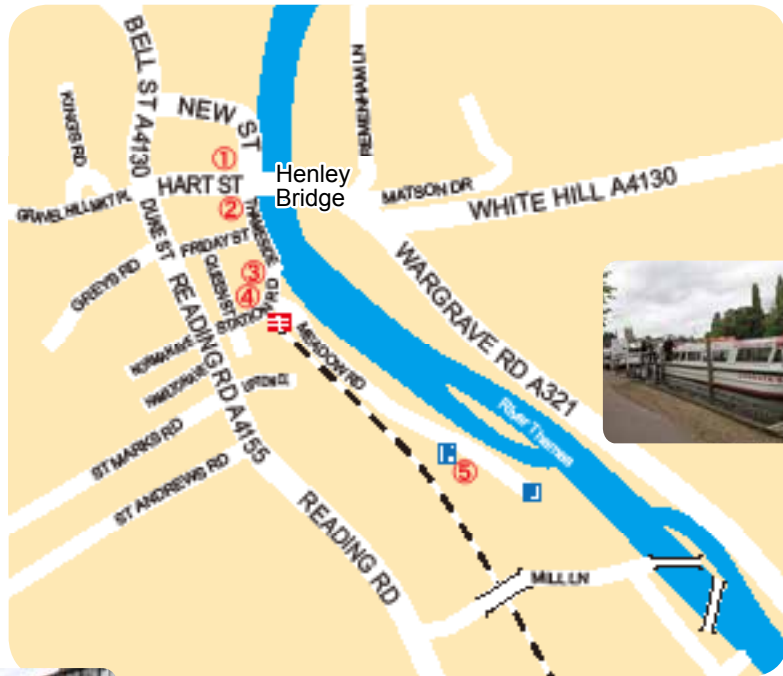
●テムズ河沿いにあり、眺めのよいパブ。夏は河に面したテラス席でビールを飲みたい。弟がレガッタに参戦していたことから、応援にきていた故グレース・ケリーもこのパブに立ち寄ったとのこと。店内のフロアには「グレース・ケリーがここに立った」という文字が小さなプレートに刻まれているので目をこらして探してみよう？

営業時間：月～土 11:30-22:00
日 11:30-19:00（サンデー・ローストは日曜 12:00 より）

住所：Thameside, RG9 1BH

Tel: 01491 410 678

www.theangelhenley.com



③ショーン・ディケンズ・アット・ザ・ボートハウス

Shaun Dickens at The Boathouse

●ミシュラン2つ星を有するオックスフォードシャーのレストラン「ル・マノワール・オ・キャトル・セゾン (Le Manoir aux Quat' Saisons)」やニューヨークの3つ星レストラン「パーセ (Per Se)」で修業を積んだ気鋭のシェフ、ショーン・ディケンズ氏が2009年にオープンし自ら腕を振るうレストラン。

●ボートハウスを改装した開放的な雰囲気の中で、細部にまでこだわった遊び心のある一流モダン・ブリティッシュ料理を堪能できる。驚きがたくさん詰まった味に会えるはず。ランチは土日・平日を問わず2コース 25.95ポンド～と良心的な料金設定で超オススメ！

営業時間：水～日 12:00-14:30、19:00-21:30（月・火曜定休）

住所：The Boathouse, Station Road, RG9 1AZ

Tel: 01491 577 937

www.shaundickens.co.uk

④ホブズ・オブ・ヘンリー

Hobbs of Henley

●1870年創立の老舗貸しボート会社。1日1～3回（季節により変動）運行される1時間のリバー・クルーズを楽しむことができるほか、セルフドライブの各種小型ボートを借りることも可能。

リバー・クルーズ運行スケジュール：

4～6月および9月…14:30

7、8月…12:00、14:30、15:45

料金：大人 £9.50

子供（3～16歳）£6

住所：The Boathouse, Station Road, RG9 1AZ

Tel: 01491 572 035

www.hobbsofhenley.com

⑤リバー＆ロウイング・ミュージアム

River & Rowing Museum

●コンテンポラリーアートの企画展のほか、常設展としてヘンリーの町の歴史やヘンリー・レガッタ、ロウイングに関連する2万点のコレクションが展示されている。また晩年をパークシャーで過ごした、エディンバラ出身の児童文学作家ケネス・グレアムが1908年に出版した名作『たのしい河べ』（原題『Wind in the Willows』）に関するコレクションでも知られている。利用者参加型の展示も多く、子供連れで楽しめる施設となっている。併設のカフェはガラス張りである明るい空間。テラスへ出ることでもでき、天気の良い日には外でお茶を飲みたくなる。

開館時間：毎日 10:00-17:00

料金：1回の入場料で1年間有効

大人…£11

子供（4-16歳）・学生…£9

住所：Mill Meadows, RG9 1BF

Tel: 01491 415 600

http://rrm.co.uk

Travel Information

※情報はすべて2016年6月14日現在のものです。



Henley-on-Thames

ビジター・センター（タウン・ホール内）

Visitor Information Centre

Town Hall, Market Place, Henley-on-Thames, Oxfordshire, RG9 2AQ

Tel: 01491 578 034

www.henleytowncouncil.gov.uk/Information-Centre-including-Tourism.aspx

※月～土 9:00-16:00（日曜休み）

ビジター用ガイドは <http://visit-henley.com> からダウンロード可。



【平時のアクセス】

車 ロンドン中心部からなら、西へ約38マイル（60キロ）、所要約1時間。ヘンリー・ブリッジは平日、ピーク時でなくとも渋滞しがち。できれば、A4130から（東方面から）ではなく、A4155から（南側から）町に入り、駅の駐車場（Station Road, RG9 1AY）か、リバー＆ロウイング・ミュージアムそばの駐車場を利用し、あとは歩いて観光するのが賢明。ちなみに、駅の駐車場のほうが割安。

電車 ロンドン・パディントン駅からヘンリー・オン・テムズ Henley-on-Thames 駅まで約1時間（ロンドンから約50分の所にあるトワイフォード Twyford 駅で乗り換え）。

【レガッタ開催期間中のアクセス】

車 お薦めしない。期間中の駐車料金は高額。また、ヘンリー市内は1車線道路が普通で大渋滞。駐車場の利用を避けるため、ロンドンからキャブを使ったとしても、レガッタ会場近くまで行くのに2時間以上かかることもザラ。帰りも同様に混む。

電車 駅からレガッタ会場まで、歩いて15分ほど。着飾って電車に乗るのは恥ずかしいかもしれないが、渋滞によるストレスを考えれば、よほどラク。